



スタッフのつぶやき

みなさんどうも。約1年半ぶりで登場の山口です。まだ生きとったんかい？ まあ、何とかやっています。さてあったのかなかったのかよくわからない秋ですが、秋と言えば読書の秋です。私の座右の書は芥川龍之介の各種短編で何年かおきに読み直します。学生服の下に赤いシャツを着てチンタラ過ごしていた高校時代、なぜか図書室には入り浸って龍之介を全巻読破して以来のお付き合いです。何がいいのか？と訊かれると困りますがなんか人間を見透かしているような文章が好きでした。

ここで突然話題が変わりまして秋と言えば健康診断の秋です（と決まってる訳でもないでしょうが、弊社の場合は...）。何が困ると言うのが胃カメラでしょう。なぜかここ数年毎回胃カメラが付いてきます。随分前の健康診断の時、問診した医師が胃カメラは毎年受けなくていいんですよ、と言っていたにもかかわらず... まあ癌になったりするよりはいいでしょ？ はあ、確かに（でもあれは拷問だな...）。まあこれは必要悪として、私が困るのは視力。これも随分になりますが目は老眼に加えてある時から飛蚊症にやられ、疲れると虫が飛び交います。しかし慢性的な耳鳴りとあわせて問診の時に状況を言っても“加齢によるものですから仕方ないですね”とつれない返事。そのくせ後日送られてくる結果表には視力の低下、聴力の低下、要再検査！ バカにしてんのか！！

で読書に戻ると、学生時代に買った龍之介の短編集、今読むと字が小さい！紙が黄ばんできている！ということで健康診断の結果を待つまでもなく読みづらいことこの上なし。電子書籍にするかあ？とも思いますがやはり本というのは紙に書かれた文字を追うものという固定観念。普段頭を使わない分、目が見えている間は読書は続けようと思います...（もっとも最近は電車通勤往復の50分弱が読書タイムですのでSFとか推理ものとかドンパチものとか... 気楽なものでお茶を濁しておりますが）。ではまた。（システム開発部 山口 徹）



ITアドバイザー養成所、その名も“ネコの穴”として登場！！

テーマ：システム導入のヒントとは

担当：巻Q

あるお客様の販売管理システムを刷新するというお話を載いて、担当者の方と打合せをしました。

お客様 「複数の業者さんに見積ももらったんですけど、どこも高くて・・・」

巻Q 「システムのどの部分の見積が高くなっているんでしょう？」

お客様 「わが社では専用の納品書を長年使用しています。新しいシステムも引き続き使用する必要があります。その専用伝票は専用サイズの4枚複写式でドットプリンターで印字します」

巻Q 「かしこまりました では、その専用伝票に印刷できるようにカスタマイズが必要なのですね」

お客様 「今まで使用している、ドットプリンターも買い替える必要があります 最近では、印字の失敗が多くて困っています。印字位置が大きすぎたり、紙送りに失敗してクシャクシャになったりで・・・ また、専用伝票だけに購入費用も高いんですよ」

巻Q 「では、その専用伝票をお見せくださいますか？ お預かりして、開発費用を試算しますね」

お客様 「ありがとうございます。こちらになります」

よくある、システム導入の打合せ風景です♪

お見せいただいた専用伝票をじっくり確認すると、確かに専用サイズで4枚複写です。これを印字位置も合わせて・・・、カスタマイズ費用はかかりそうです

巻Q 「教えてください。こちらの専用伝票で印字する必要がある理由とはなんでしょう？ また、何故4枚複写なのでしょう？」

お客様 「昔から使っているので、理由はわかりません。1枚目は原本、2枚目は控え、3枚目は受領書です。4枚目は何だったかな？ 現場の担当者に確認しないとわからないですね。」

巻Q 「ありがとうございます。では、次回お打合せまでにご確認をお願いしますね。」

お客様 「わかりました」

・・・そして、次回の打合せにて・・・

巻Q 「先日お預かりした専用伝票ですが、4枚目は何でしょうか？」

お客様 「そうそう、現場に確認したら今は使ってないって言うんですね。今は捨てているそうです。もったいないですが・・・」

巻Q 「そうなんですか。3枚複写でも良さそうな気がしますね。あと、専用伝票で印字する必要がある理由はなんでした？」

お客様 「誰も理由を知らないんですよ。結局、社長に聞いたら別に理由はないそうです。」

巻Q 「そうなんですか。では、手前どもから提案させてください。そもそも専用伝票を印字することをお辞めになられたらどうでしょうか。弊社システムの標準フォーマット伝票形式でも問題ないのではと考えます。」

お客様 「言われてみれば・・・」

巻Q 「そもそも専用伝票の購入費用もなくなります。ドットプリンターも必要ありません。印字に失敗することもなくなります」

お客様 「でも、控えは？」

巻Q 「システム内で画面から履歴を確認されたいかがでしょう？ カスタマイズも不要になりますよ」

お客様 「それはそうですね。社長に確認してみます。でも、この間専用伝票を大量に発注したところだしな・・・う～ん」

あくまでも、一例ですがこの手のお話はほんとによく見かけます。原因は【そういうものだからと、誰も疑問を持たなかった】ことです

システムを刷新するときは、是非「そういうものだからと、誰も疑問を持たなかったこと」にフォーカスしてみてくださいね。上流での対処って「莫大なメリット（時間やコスト削減）」を生むと考えます。 **巻Q**でした～！

読者 訪問



第155回

お伺いした会社 ブックセンター神足
お話を伺った方 店長 山本 真己 様
会社の所在地 〒617-0833 京都府長岡京市神足1丁目8-3
連絡先など TEL 075-951-1830 FAX 075-951-1830
事業内容 書籍の販売(宅配)

今回は長岡京市のブックセンター神足さんをお訪ねしました。

同社は1984年(昭和59年)にJR神足(こうたり)駅(現在の長岡京駅)前に書店を開店されました。駅前がいい立地に恵まれて順調に事業展開されていたのですが、Amazonに代表されるネット販売と大型書籍店舗の台頭などの波に押され、店頭販売が徐々に厳しくなり、ついに3年前に店舗を閉鎖されました。しかしながら、定期的に書籍を配達する固定客は多く、配達専門の書店として頑張っておられます。

定期的に配達する先は、美容院であったり、喫茶店や銀行、病院など300件にものぼるそうです。地域で書籍の配達をしているところがなく、地元の各店舗からは重宝がられているとか。もちろん店舗だけではなく、個人で定期購読している人も少なくないそうで、頼りになる存在となっています。

オーナー店長の山本さんは「本を届けるということは文化に貢献していることだと思っている」とおっしゃっています。

たしかに、書籍というのは文化的側面が大きいもののひとつですね。

しかしながら、最近では本を読まない人が増えてきていると嘆いておられました。1ヶ月間書籍代に5,000円以上使うのはヘビーユーザーで、1ヶ月間本代に1円も使わない人が全人口の半分もいるとおっしゃっていました。携帯代に毎月何千円も使うのに本を買わないと。

皆さんは如何ですか? 毎月書籍代にいくら位使っておられますか?

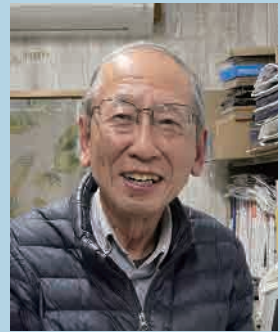
店舗販売が厳しくなってきた背景には、Amazonや大型店舗の進出だけではなく、そういった背景もあったのですね。

定期購読先にはひと月分まとめて請求書を出されるのですが、もともとは300件あまりの納品書や請求書を手書きで書いておられたそうです。さすがにそれでは大変だということで、パソコンでの発行を考えて、ある人が作ったソフトを使い始めたそうです。

あるとき、そのソフトを作った人が亡くなり、こりゃ大変だということで(株)新和事務機(<https://www.shinwa-jim.co.jp/>)さんに相談したところサポートの@に紹介され

導入して下さいました。今や請求書発行に欠かせないツールとして重宝していただいております。来る消費税インボイス制度への対応(ソフトのバージョンアップ)もお申し込みいただきました。

地域にとってなくてはならない貴重な書籍の宅配、地域貢献と文化の担い手としてこれからもますますお元気で頑張っていたきたいと思います。(米田)



山本店長



@に入力中の娘さん

いっちょかみ “一丁啮” が行く! 第166回: スケジュール管理

みなさんご自身のスケジュールを手帳で管理されていますか? それとも Google カレンダーのような電子スケジューラーで管理されていますか? 電子スケジューラーを使おうと思うとスマホのカレンダー機能もいろいろあって、どれを使おうかと迷いますね。一方、紙の手帳の種類も多く、胸ポケットに入れる小型のものからバインダー式のものまで豊富にあります。

私は10年以上前から、ずっと能率手帳の製品番号1771番を使ってきています。近年、能率手帳という品名からNOLTYという商品名に変わりましたが中身は変わらず、左ページに1週間のスケジュール表があり、右ページは罫線だけの自由メモ欄となっているスタイルのものです。紙の手帳の最大の利点はその右ページのメモ欄なんですね。備忘録としていろいろなことをメモったり、外出中にちょっと思いついたことを書き留めておいたり...とその役割は貴重です。会社で全社的にスケジュール管理をするのに Google カレンダーを使い始めて久しいのですが、オフィシャルなスケジュールは Google カレンダーに入力し、その内容を手帳に転記しています。また、外出先などで決まったスケジュールは手帳に書いて、会社に戻ってから Google カレンダーに入力しています。二度手間であまり面倒くさいのですが、サッサと書いて一覧性にすぐれている手帳の良さを捨てがたく、そんな使い方をずっとしてきていたのですが、手帳に書いて Google カレンダーに入力し忘れていたとか、Google カレンダーには入力しているが手帳に転記し忘れていたなどということが歳のせいか頻りに起こるようになり、なんとかせなアカンと思うに至りました。

そしてついに今年の6月から意を決して紙の手帳を使うのをやめて Google カレンダー 1本にしました。会社ではパソコンで入力、確認し、外出先ではスマホで見たり書いたりしています。確かにスマホでは紙にサツと書くというほど迅速性はないし、一覧性も紙の手帳には及びません。しかし、転記ミスや転記漏れの事故は間違いなく防げますので、多少の不便さを感じながら半年が過ぎました。なんとかやっとな慣れてきたように思います。転記漏れの恐怖におののくこともなくなり安堵しています。手帳の利便性に比べると少し劣る使い勝手の悪さも徐々に慣れてきて、データの整合性、共有性など、電子データならではのメリットを感じている今日この頃です。(一丁啮)

編集後記 外国人の入国制限も緩和されてきて、外国人観光客の姿が目立ちはじめてきました。京都は紅葉の季節となり、京都駅には大勢の観光客がやってきています。一方、コロナ感染者数はまた徐々に増え始め、コロナと日常性の両立に向けて試行錯誤を続けていくことになりそうです。そして一刻も早くコロナのことを気にせず生活ができる日が来ることを願っています。